第二中学校だより

令和６年４月号

↓二中ホームページ↓

Ｒ６ミッション「期待の登校、満足の下校」

入学、進級おめでとうございます。

校長　小関　直

本日、新入生308名を迎え、全生徒977名で令和 6 年度がスタートしました。一人一人の生徒が将来の自立や自己実現に向け、確実に成長できるよう教職員一丸となって支援してまいります。

大きく変わる中学校教育

社会の変化やコロナ禍を経て、社会通念も大きく変化し、中学校教育の在り方も変革期を迎えています。昨年度は、「集団から個へ」「他律から自律へ」「子供の意見表明権」「ICT による授業変化」などの視点でその変化をお伝えしてきました。他方、「部活動の地域移行」、「教員の働き方改革」などは、教育界の大きな課題となっています。本校では、教科指導に当たる教員が昨年度より1名少ない体制でのスタートとなっており、一人一人にかかる負荷は当然大きなものとなっています。教員不足が全国的に深刻な問題となっていることにもご留意いただけたらと思います。

さて、本校では、昨年度行った校内調査、行動観察等を踏まえ、「従来から行われている集団を対象とした一斉指導に適応できない生徒が増えており、様々なひずみが生じている」と捉え、今年度から「多様な育ち」を前提とした学校システムの再構築に取り組むこととしました。

- チーム Up 担任制の導入
- 校内教育支援センターの設置

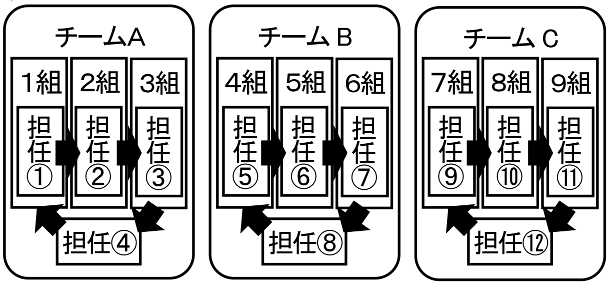
です。

学校だより3月号でお知らせして以来、期待の声が寄せられる一方、これまでの体制から大きな変更となることから、不安の声も寄せられています。当然のことだと思います。概要を次にお示しいたします。

チーム Up 担任制

校内調査で「人と接することへの不安」の高まりが推察され、様々な不安に寄り添うためには、多様な相談のチャンネルが必要であると捉えました。そこで、「1つの学級を1人の担任が1年間担当」する方法から、「複数の学級を複数の担任が協働して担当」する方法に全ての学年で変更することにしました。具体的には、**「原則3学級を1チームとし、4名の教員がローテーションで担任」**をします。（「2学級3名担任」の例外あり）

ローテーションは1週間程度を想定していますが新1年生については、入学直後は相談窓口を固定した方が円滑に支援できることから、1か月程度はローテーションをしない予定です。



複数担任制（チーム担任制）は、全国的に広がりつつある取組ですが、本校の取組は、「登校に対する不安」に焦点を当てていることに特徴があります。

校内教育支援センター

文部科学省では、登校に不安を抱えるお子さんを支援する場所として「校内教育支援センター」の設置を進める方針です。本校では、他校に先駆けて「さわやか相談室」が似たような役割を担ってきましたが、本来の相談活動が円滑に行えない等の課題も顕在化するようになってまいりました。また、教員でない相談員が主な支援を行っているため、教育活動という意味では、過重な負担を強いてきた側面もあります。

そこで、担当教員2名を新たに指名し、相談員とともに3名体制で校内教育支援センターを運営することにしました。これまで相談室登校をしてきた生徒にとっては、急激な環境の変化は不安感情を高めることにもなることから、正式な開設は5月からとし、徐々に移行することにしています。4月は、これまで通り、相談室に登校して大丈夫です。

さて、校内教育支援センターですが、活動の場を自習室「スマートスタディールーム」（スマスタ）にするため、これまでの呼称「相談室登校」は「スマスタ登校」に変更となります。5月以降、移行段階として金曜日を「教室チャレンジデー」として教室登校を促す日としますが、スマスタ登校で学習に取り組んでもよいような対応を図ります。

スマスタ登校では、次のことを行います。

- これまで通り、原則「自習」をする場となりますが、「学びの保証」のため、空き時間の教員が分担して質問を受けたり（質問教室）、実技教科の指導を行ったりします。Chromebook で教室の授業をオンラインで受けることもできます。
- 大学生ピアサポーター（市事業）との交流を計画しています。
- 外部人材の協力を得て「体験活動」を実施していく計画です。花の植栽、調理等の活動です。

「チーム Up 担任制」の導入や「校内教育支援センター」の設置は、不登校など全国的な課題の解決に向けた取組にも効果があると期待されることから、県から令和6年度「生徒指導における先進的取組推進校」に指定された実践研究ともなっています。今後、十文字学園女子大学との連携による取組に発展させていく予定です。

これまで、ICT教育の先進校として、県内中学校をリードしてきた勢いそのままに、今年度も「取り組むべき」ことは躊躇なく実施してまいります。一方、評価の在り方等、形骸化しつつあるものは、勇気をもって整理していく所存です。

保護者の皆様、地域の皆様の引き続きのご理解とご協力をお願いします。

（今年度も本音ばかりの文章になりそうです。申し訳ございません…。）